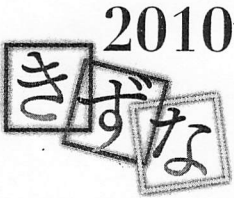


「きつこげど、1人で悩まないと」

板沢俊明さん

11月から千葉市のパイプ製造会社に勤務し、営業担当として取引先を駆け回る。「1日がすく短い」。3月までは大学同説明会に足を運ぶと、就職氷河期の真ただ中にいた八千代市の板沢俊明さん(24)は、念願だった社会人としてのスタートを切った。「50〜70社受けたが駄目だった」。今でこそ充実した毎日を通すが、内定が一つもないまま大学を卒業し、どうしていいのかわからない苦しい日々を経験してきた。

就職活動を始めたのは3年生の秋。すでに企業はリーマンショックのおりを受け、学生にとっては厳しい状況が続いていた。応募を繰り返すが



Q 大学生の就職内定状況、千葉労働局によると、来年3月卒業予定の大学生の就職内定率は11月1日時点で41.2%(前年同期比1.5%増)。就職希望の1万6755人のうち内定がもたらしたのは6999人という。昨年度の大学生の卒業時の内定率は82.2%(同8.4%減)で、本年度はこれを下回る可能性もある。12月16日には、千葉市美浜区で、労働局主催の大学生向け就職面接会が開かれる。

「氷河期、乗り越え納得の就職」



内定がないまま3月に大学を卒業したが、職業訓練を受け納得の会社に就職することができた板沢俊明さん(33日、千葉市中央区)

開設する就職活動の基礎講座を受講した。訓練生として半年を過ごし、あらためて感じたのは「コミュニケーションの大切さ」。大学生の時は、気の合う仲間とだけ話していればよかったが、受講生は10人と少数。嫌でも1日中一緒にいる環境で授業を受け、「相手が自分をどう理解しているのか考えるように」。板沢さんは「きつこげ」とも助けになった。お互いに情報交換したり、探

用試験に落ちると、どうしたら良かったのか話し合う。「1人じゃない」と思えるようになった。失っていた自信を少しずつ取り戻し、講座で身に付けたスキルを武器に、行きたいと思っていた今の会社に就職。新人は戸惑うことも多いが、時間の大切さや給料をもらって働く「プロ意識」を学ぶ毎日、成長を実感している。

今年度の大学生も厳しい就職戦線を余儀なくされ、年の瀬を迎えた現在でも、多くの4年生が内定をもらえないでいる。板沢さんは「きつこげ」と思いますが、妥協しないで、道は開けるといふことを、先輩たちは証明している。

悩まず、友達やカウンセラーに相談して」と先輩に声を送る。同じ講座を受けて支え合っていた仲間も7人は就職できた。大学卒業後に三つの内定をもらった柏市の女性(22)は「焦らなくても大丈夫。焦って自分に合わない会社に入らないで」。今では納得の会社で働き、受からなかった企業には「むしろ不採用にしてくれたありがたい」という気持ちすらあるという。

卒業を間近に控え、不安や焦りを感じる学生は多いが、あきらめなければ道は開けるといふことを、先輩たちは証明している。